



学校だより

なかのかみ

校訓

至誠

令和元年6月10日

第10号

海南市立中野上小学校

「グリーンカード」

先週の金曜日は、急に雨が激しくなり、大雨警報が10時7分に発表されましたので、給食を食べながら、お迎えに来ていただきました。子どもたちの迎えに来てくださった方々のご協力と、初めての割にはスムーズに子どもたちが帰宅することができたのではないかと思います。全児童が帰宅の途についてから、今回の方法について、改善点や反省点等について全職員で協議を行いました。この経験を次回に生かせるようにしたいと考えています。

さて、サッカーの場合、特に悪質な反則を行ったプレイヤーに対して審判がイエローカードとレッドカードを提示することを皆さん知っていると思いますが、実は「グリーンカード」もある事を知っていますか？

グリーンカードとは、選手に対する教育的側面からフェアプレー・マナー・頑張りを褒めるために主審が提示（もしくは選手への贈呈）するカードのことです。2004年度に12歳以下の試合に対してカード制度の導入を行い、積極的な使用を奨励しているそうです。

グリーンカードを出す状況としては、頑張った証、負傷選手への（思いやり）対応、規則準拠に対する自己申告、問題行動への抑止行動、チームに対する試合への取り組みなどが評価を受けるものであるとき提示されます。

例えば、

- ・6点を取られて負けている状況でも、やる気を失わずチームメイトにも声を掛け勇気を持って攻め込む。最後まで全力で試合をやり通した。
- ・6点も取ってしまったが、相手を侮辱するような行動を取らず、最後まで気を抜かずプレーし続けた。
- ・相手のディフェンダーに体当たりして倒してしまった。手を貸して起こし謝り、握手することが出来た。
- ・明らかに自分のファウルで相手が痛がっている。手を上げて審判にアピールした。
- ・イライラしていたチームメイトが、ついに相手選手と怒鳴りあってしまった。引き離してなだめた。
- ・炎天下の試合、ある中心選手が疲弊しているのに気づいた。交代はチームにとって痛いけど、給水まではまだ間がある。選手の体調を考え、すぐに交代した。チームメイトも穴を埋めようと必死で頑張った（試合後、選手ではなくチームに提示される）。



審判は、選手へのグリーンカード提示の際、簡単な状況説明、褒めること、ポジティブなアクション（笑いかける、キッズならば頭を撫でるなど）をするそうです。

私たちは、日々の生活の中で「グリーンカード」を何枚、もらえるのでしょうか。

校長 中家敦司